

剣道学科試験問題 (2014年9月～2015年2月開催試験会場)

初段

- (1) 「剣道の理念」について書きなさい。

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。

- (2) 「使ってはいけない竹刀」とはどのような竹刀ですか、説明しなさい。

1. 試合・審判規則に明示されている竹刀の基準以外のものを使用すること。
2. 竹刀がささくれたり、折損や亀裂などがあるもの。
3. 中結いが切れていたり、先皮や柄皮が破れていたりするなど、付属品に破損があるもの。
4. 付属品を正しく使用していないもので、先皮の長さやその直径が基準よりも小さいもの。
5. 中結いを剣先より竹刀全長の約1/4の位置に固定していないもの。

- (3) 「三つの間合」を書きなさい。

間合とは、自分と相手の距離をいう。

間合には、一足一刀の間合・遠い間合・近い間合の三つがある。

(解 説)

1. 一足一刀の間合・・・剣道の基本となる間合で、一步踏み込めば相手を打突出来る距離であり、一步さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。
2. 遠い間合 (遠間)・・・相手との距離が一足一刀の間合よりも遠い間合で、相手が打ち込んで来てもとどかないが、自分のだと打突もとどかない距離である。
3. 近い間合 (近間)・・・相手との距離が一足一刀の間合よりも近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

- (4) 「基本の大切さ」について述べなさい。

剣道でも上達するためには基本が大切である。

基本をしっかり身に着けると、技術に無駄がなくなり、効率的 (少ない労力で多くの効果が上がる) で正確な技術が身につくようになる。

- (5) 「気剣体一致」について説明しなさい。

気とは気力、剣とは竹刀操作、体とは体さばきと体勢のことである。

これらが打突時に、一体となって働くことで有効打突になる。

剣道学科試験問題 (2014年9月～2015年2月開催試験会場)

二・三段

(1) 「竹刀を点検するときの要点」を書きなさい。

1. 竹刀にささくれや亀裂がないかどうか、カーボン竹刀の場合には、黒いカーボン繊維しているかどうかを点検する。
2. 先革が破れていないかどうか点検する。
3. 弦が緩んでいないかどうか点検する。
4. 中結いがか切れていたり、締め方が弱すぎていないか点検し、さらに剣先から竹刀全長の約1/4の位置に固定されていることを確認する。

(2) 剣道で「礼儀を大切に理由」について述べなさい。

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。

稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんもこと、終始、正しい心、慎みの心、敬う心といった礼の本体を離れることなく、剣道を創造していくうえで、礼は大切な要素である。

(3) 「掛かり稽古の目的」を述べなさい。

掛かる側は、打突の成功や失敗など念頭に置かず、積極的に相手を攻め崩して打突の機会をつくり、短時間のうちに気力、体力の限りを尽くして、全身を使って大きく伸び伸びとし「しかけていく技」を用いて打ち込む。

技術と肺機能の向上を図り、気力や体力を練り上げる稽古法である。

(4) 「気剣体一致」について説明しなさい。

気とは気力、剣とは竹刀操作、体とは体さばきと体勢のことである。これらが打突時に、一体となって働くことで有効打突になる。

(5) 「残心」について説明しなさい。

残心とは、打突した後でも油断することなく、相手の反撃に対応できる身構えと気構えである